

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

*** ドイツから出荷前のレプソルド子午儀の写真が届いた
(麻布時代のレプソルド子午儀の写真発見)**

2008年4月、ドイツからメルツ・レプソルド子午環の写真はないかと尋ねられ、1923年9月1日までは確かに東京天文台に存在したが、その日の関東大震災で大破し、既に存在せず、写真もないと返事をした。ところが古い文献を調べていて、東京天文台年報2号の初代東京天文台長であった寺尾寿の論文にメルツ・レプソルド子午環の写真が掲載されている事に気づき、その写真を送っていたところ、今回、レプソルド子午儀を東京天文台に出荷する前の写真をドイツから送ってくれた。ドイツに返事をする際、レプソルド子午儀は地震の難を免れ、現存すると知らせてあった。今回送られてきた写真1である。

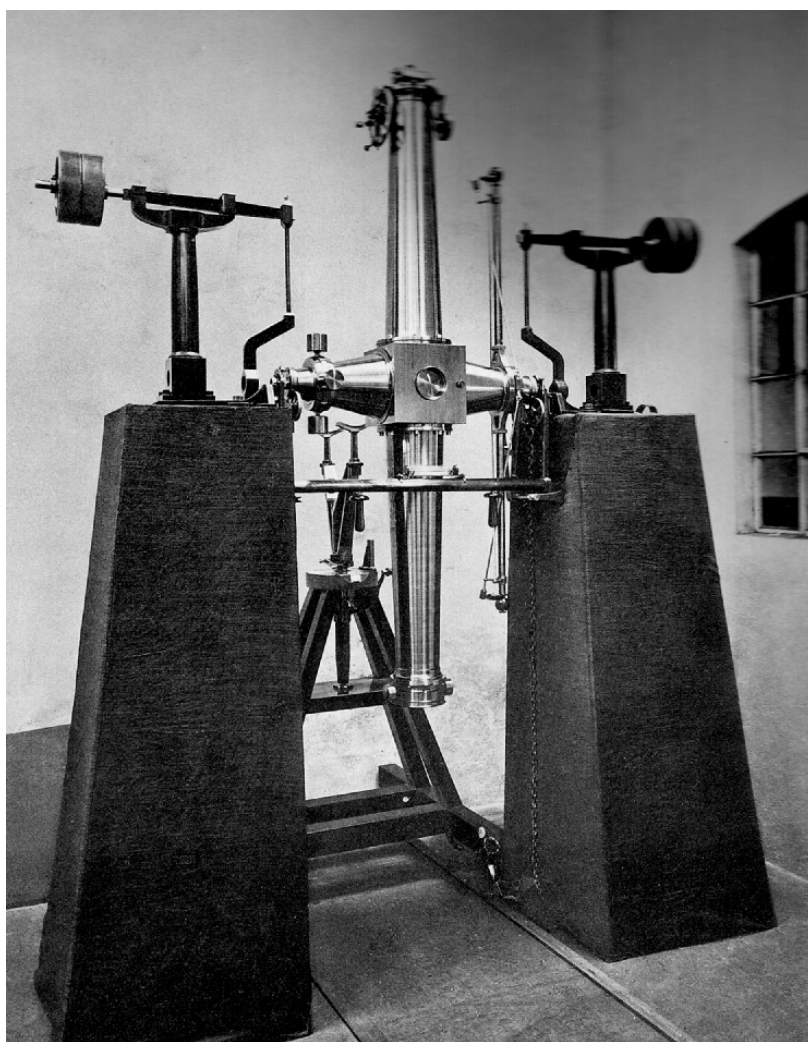


写真1 ドイツから送られてきた日本に送られる前の写真

メルツ・レプソルド子午環の写真が見つかったという記事を2008年7月9日発行のアーカイブ室新聞40号に書いたが、それよりずっと前、5月28日に木下宙氏がメルツ・レプソルド子午環、レプソルド子午儀の写真を見つけたと中桐のところに来て、さっそくコピーをとっていた。この時点でこれらの写真発見の記事を書いておけばよかったのだが、うっかりしていてその後、一戸直蔵の資料が手に入り、彼の著書のなかにより詳細が分かるメルツ・レプソルド子午環の写真を見つけ、その時点で書いたのがアーカイブ室新聞40号の「メルツ・レプソルド子午環の写真発見」という記事であった。

その際、写真2のレプソルド子午儀の写真も発見していたのである。

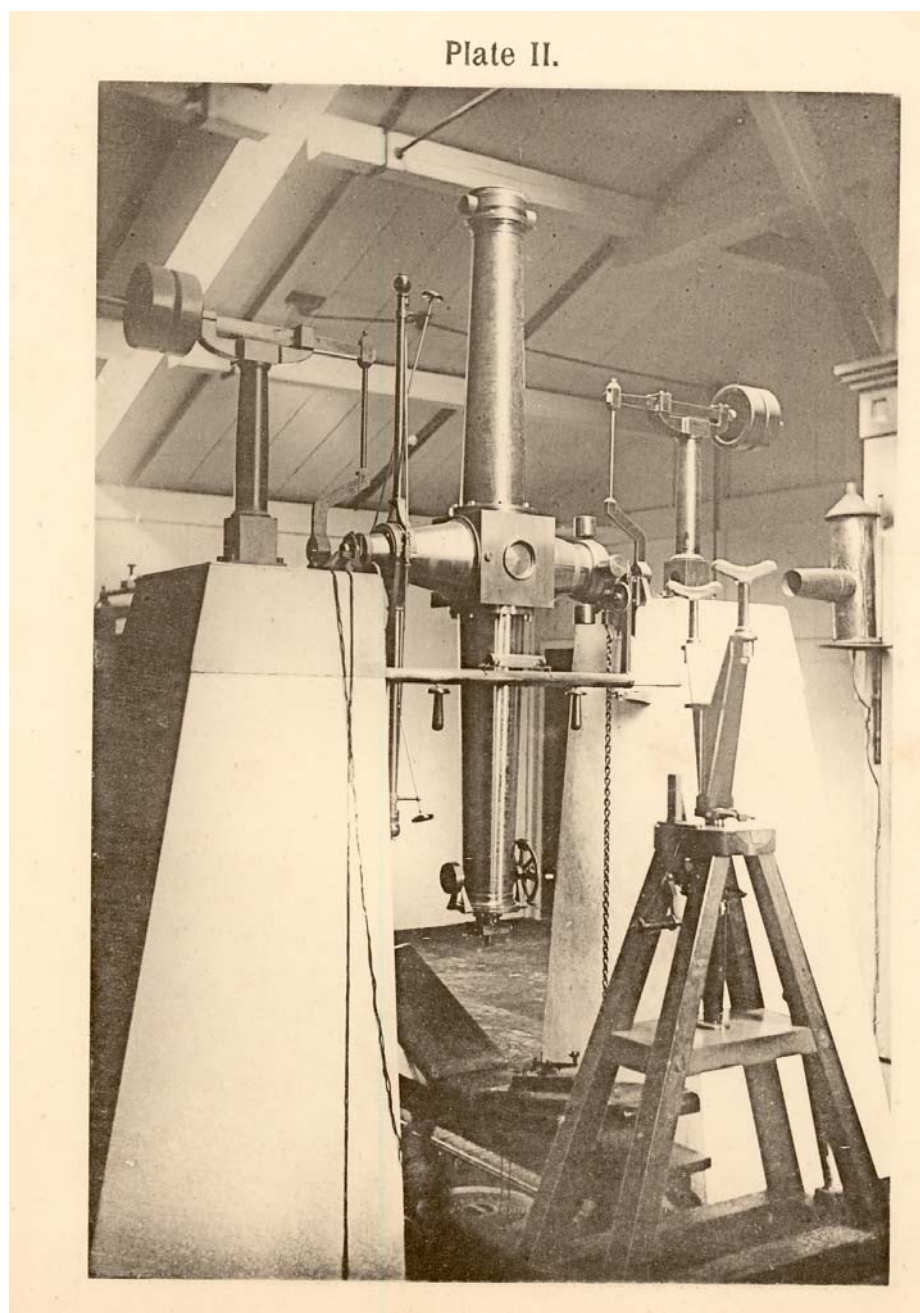


写真2 麻布時代のレプソルド子午儀の写真

そして、今日、ドイツからレプソルド子午儀のドイツでの写真が送られてきて、5月28日時点でレプソルド子午儀の写真発見の記事も書いていない事に気がついた。ところが情けないかな！5月28日に発見したレプソルド子午儀の写真が何に載っていたかすっかり忘れていて、出典を明らかにしないで記事を書くわけにも行かず、さんざん苦労した挙句、図書館の小栗さんの助けを借りてやっと出典を見つけた。その写真は東京天文台年報1号に掲載されていたのである。このレプソルド子午儀の写真は麻布時代の写真であり、高度軸の中を照らすランタンが右端の高度軸の高さに写っている。それで三鷹のレプソルド子午儀室の東西の壁に設置されている小さな棚(写真3)が何のために置かれたのかが分かった次第である。



写真3 高度軸を照らすランタン用の棚

このように、だんだんと分からなかった事が判明していくのは楽しく、愉快的事である。この写真2には、観測の際、接眼部を覗くために使用するリクライニングシートのような椅子も写っている。これは角度を変えるハンドルも着いている。

写真3が三鷹のレプソルド子午儀室の東西にあるランタン用の西側の棚である。麻布時代のランタンは見つかっていないが、このランタンは地震で落下して壊れたのであろう。